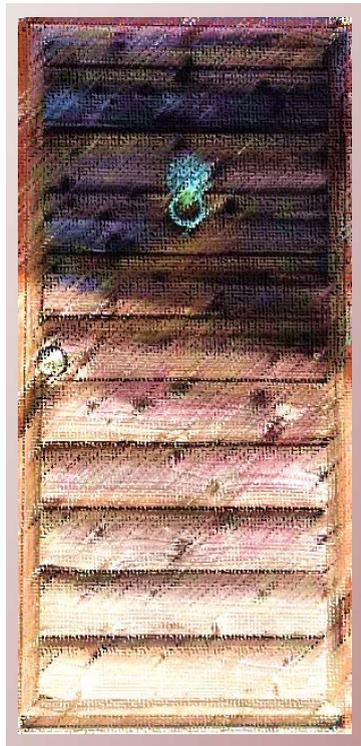


SYNAPIS ニュース

社会活動センター・シナピスは平和を実現する使命に向けて生きる人びとを応援します
No.57 2021. 2

今月のテーマ：「下から」創りあげられる平和



主よ、わたしをあなたの平和の道具にしてください

カトリック大阪大司教区 社会活動センター

シナピス 

地上でもっとも小さいといわれている種子、それがシナピス(からし種)です。

イエスは神の愛がすべての人におよび、互いに尊重し合い、愛し合うように願って平和の種をまき、やがて鳥が巣をつくるほどの大きな木になると約束しました。

TEL 06-6942-1784

FAX 06-6920-2203

E-mail sinapis@osaka.catholic.jp

エリック・パウチスタ・デ・グスマン神父
船員司牧担当司祭

わたしたちは平和のためによく祈ります。元日は教会にとって世界平和の祈願日と定められ、神の母聖マリアの取り次ぎを願い、世には平和があるように御父に祈ります。

毎年、8月6日から15日までは日本カトリック平和旬間です。広島と長崎に原爆が投下されたことを思い起こし、犠牲者の永遠の安息を祈り、全世界では二度と戦争を起こさないよう、宗教を越えて、心から祈ります。

しかし、平和の実現は祈りをささげることだけではありません。主イエスは山上の説教で「平和を実現する人々は、幸いである。その人たちは神の子と呼ばれる」(マタイ5・9)と教えられ、さらに、72人の弟子たちを派遣されたときに、「どこかの家に入ったら、まず、『この家に平和があるように』と言いなさい。平和の子がそこにいるなら、あなたがたの願う平和はその人にとどまる。もし、いなければ、その平和はあなたがたに戻って来る」(ルカ10・5～6)と指示されました。わたしたちもどこへ行っても、平和をもたらす者にならなければなりません。そうすると、わたしたち自身も「神の子」と呼ばれ、天国で永遠のいのちという相続を御父から頂くことができます。時々、いくら平和をもたらそうとしても、うまくいかないときがあります。その場合は、「その平和はあなたがたに戻って来る」という主のことばを信頼し、キリスト者としてできることをとにかく行くと、心に平安がもたらされ、平和がわたしたちのもとに戻ってきます。

平和の君であるキリストを胎内に宿したマリアはエリザベトの家を訪問し、平和をもたらしました(ルカ1・39～)。アッシジの聖フランシスコは「平和の祈り」に「主よ、わたしをあなたの平和の道具にしてください」と唱えました。自分を与えることによって受け、赦すことによって赦され、いのちをささげて死ぬことによって永遠のいのちを得ることを目指し、世界平和がわたしたち自身から始まるよう努めましょう。



今月のページ

■ ニュースレター 目次 ■

- 1 巻頭言
- 2 シナピスの風
- 3 子どもたちに伝えたい平和
- 4 障がい者委員会より
- 5 時報 1.2月号より
- 9 「正義と平和」大阪大会お知らせ
- 10 みんなの掲示板
- 11 教えてください～！！第十弾！
- 13 沖縄とわたしたち
- 14 憲法がかわったらどうなるの？
- 15 あとがき

■ チラシ・ご案内 ■

- ・シナピスの風 (A3 小教区と修道会のみ)
- ・12月の祈り
- ・忘れないあきらめないカレンダー
- ・第54回「世界平和の日」教皇メッセージ
- ・被爆地広島と長崎のカトリック司祭による共同声明
- ・宗教者共同声明
- ・ご賛同のお願い
- ・沖縄糸満市戦没者を二度死なせてはならない
- ・2.13 日本学術会議『任命拒否』を問う
- ・映画のご紹介



すべてのいのちを守ろう

2021年 正義と平和協議会全国集会 大阪大会テーマ

地上でもっとも小さいといわれている種子、それがシナピス（からし種）です。イエスは神の愛がすべての人におよび、互いに尊重し合い、愛し合うように願って平和の種をまき、やがて鳥が巣をつくるほどの大きな木になると約束しました。

シナピスの風

* 行事はコロナ感染症の影響で延期または中止になることがあります。ご参加の際は連絡先にお問い合わせください。

第134号 2021年2月1日発行

2月の祈り

2月20日 世界正義の日



「わたしの魂よ、神を賛美せよ。神は虐げられている人のために裁きをし、飢えている人にパンをお与えになる」(詩編 146、1・7)

天の父よ、人類は正義に飢え渴いています。あまりにも現実には正義の理想から離れています。心が痛みます。どうすればいいかと考えるときに、詩編のことばが思い浮かんできます。正義とは、虐げられている人のための裁きで、飢えている人にパンを与えることです。あなたのなさり方を伝えている このみことばを心に留めて 実生活で大事にしたい。一人ひとりが神の子として尊敬され、与えられたいのちを人間らしく生きることが出来る社会を築いていきたい。希望を失わないように、わたしたちの歩みを支え、知恵と力を与えてください。わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。



シナピスでは、毎月のお祈りをニュースレターとともにお送りしております。教会で、ご家庭で、日々のお祈りにお使いください。シナピスのホームページからも、ダウンロードしていただけます。

巡回展「生と死の間で —ホロコーストとユダヤ人の救済の物語—」

大阪大司教区推薦

日時：1月19日(火)～3月30日(火)
9:30～17:00 (入館は16:30まで)
毎週月曜および2/2, 2/12, 2/24, 3/2, 3/23 休館



カタログ(日本語) 動画

場所：ピースおおさか 1階特別展示室
共催：ピースおおさか・記憶と連帯の欧州ネットワーク
問合せ：ピースおおさか
(TEL)06-6947-7208 (FAX)06-6943-6080

社会福音化部 黙想会 ～平和の使徒として～

日時：3月13日(土) 10:00～16:00
場所：宝塚黙想の家
指導：松浦謙(社会福音化部司祭)
参加費：2000円(昼食代・施設使用料含む)
主催：カトリック大阪大司教区社会福音化部

申込み締切：2021年3月6日(土)まで(定員12名)
* 下記 TEL/FAX/メールにてご連絡ください。



問合せ・申し込み：シナピス

第1回 日韓映像カフェ

日時：3月21日(日) 13:30～17:00
内容：「海女のリャンさん」(2004年)鑑賞、分かち合い
方法：オンライン(ZOOM) *後日 URLをお送りします。
主催・問い合わせ：シナピス *参加費無料



J-CaRM 特別企画

キリスト者として関わる 入管法改定に関するセミナー

日時：3月27日(土) 14:00～16:00 *参加費無料
方法：対面またはオンライン(ZOOM)
共催：日本カトリック難民移住移動者委員会(J-CaRM),シナピス
問合せ：シナピス

シナピス工房

表側はイエス・キリスト、裏側は14留の道行きの絵が刻まれています。

十字架の道行きが手元でできる十字架ストラップ(¥700)や大玉のロザリオ(¥900)などを準備しています。祈りのおともやプレゼントにお使いください。



「性虐待被害者のための祈りとつぐない」の日に向けて

日時：3月6日(土) 13時～15時
おはなし 13:30～15:00

場所：サクラファミリア
主催：カトリック大阪大司教区セクシュアル・ハラスメント対応委員会

緊急事態宣言のため中止

2021年大阪大司教区協賛法人 全ての命を大切に NPO法人こうのとりのゆりかご in 関西の理念と現状

日時：3月13日(土) 13:30～15:30
講師：人見滋樹(NPOこうのとりのゆりかご in 関西理事長)
参加方法：リモート参加または関西セミナーハウス「別館」来場(会場は先着10名まで) **申込み締切：3月10日(水)**
参加費：リモート・来館共通1,000円 学生500円
問合せ：公益財団法人日本クリスチャン・アカデミー関西セミナーハウス活動センター (TEL) 075-711-2117 (FAX) 075-701-5256 (e-mail) office@academy-kansai.org

第8回いのちの光3.15フクシマ

「3・15から10年 フクシマが背負ってきたもの伝え続けるもの」
日時：3月13日(土) 14:00～
場所：カトリック元寺小路教会大聖堂 / youtube 配信 (https://youtu.be/IWsg10uFhWE)
講師：伊藤延由さん(現地報告者)
「福島の実況ついて～飯館から見え、考えてきたこと～」
参加方法：オンライン(上記URLにアクセス)・会場での参加
主催：「いのちの光3.15フクシマ」実行委員会/後援：カトリック仙台教区
協賛：日本カトリック正義と平和協議会・カトリック正義と平和仙台協議会
問合せ：(TEL) 090-2022-4007(木元) (e-mail) inochinohikari315@yahoo.co.jp



子どもたちに 伝えたい平和



聖心会 井上 千寿代

ジャカルタのやけつくようなあつい真昼のある日、私はジャティネガラ駅の前で、今日、
刑務所から出てくる14才のマンスールを 仲間11人の、子供達と少しきんちょうして、
お客を待っているタクシーにもたれて、立っていました。子供達は、ひそひそと心配そう
に、話し合っていました。何だか、落ち着きがないようだったので、

「どうしたの。何かこまってるの。」と聞くと、

「エート、アノー、武器をさがしてるんだ。」

「ええっ、どうして。」

「だって、マンスールは、友達のドゥールを殺したんだろ。次はだれかな……。何か用意
しといたほうがいいよ。」子供たちは、私をだまってみつめています。私は、おどろき、
ちょっと大きな息をついて、言いました。

「じゃあね。あんたたちのうち、今までに、嘘をついたことがない、お店から万引きや、友達
とケンカしたことがないなら……。どうぞ、こん棒か、石か、なにかさがしたらいいよ。イブ
イノ（私のこと）は、あんたたちに嘘をついたし、怒ったし、意地悪もしたし……。

だから私は何にも用意しない。喜んで迎えたい。刑務所で、一年間、さびしかったと思う
よ。」

子供たちは、お互いに顔を見合わせて、ひとり、ひとり、

「じゃあ、オレ もういいーらない。」「おれも。」「おれも。」……といって、みんな安心して
気持ちにもどり、マンスールを待ちました。

ひとりの子が、そばにやって来て、

「イブイノ、それって、預言者キリストの教え？」と聞いてきました。

「そう。」心のなかではびっくり。かれら、分かっているんだ。

まもなく、マンスールは、感情に負けた彼の失敗から、将来の人生を守ってくれた弁護士
のお兄さんたちと車で、やってきました。みんなで、マンスールを涙の内に温かく抱き
合って迎えました。駅前の広場のテントで、トリのから揚げとご飯のご馳走を、みんなで
いっしょに、楽しく食べました。平和なひとときでした。

わたしたちも、毎日、小さな平和をつくれるかな……。

1 タラントンの預かりもの 「障害者差別解消法」は出たけれど



石井 望

福音書の中に、家の主人から巨額の金（タラントン）を預かった三人のしもべのたとえ話があります（マタイ 25：14-29）。二人のしもべは主人の期待に応じてタラントンを使って喜びをともにしましたが、一タラントン預かった三番目のしもべは主人を恐れて金を土に埋めておいたというたとえです。主人への「忖度（そんたく）」の仕方、結果は大きく異なりました。

2014年障害者の権利条約を批准、2016年障害者差別解消法成立、また宗教法人を管轄する文科省をはじめ関係省庁や各自治体からも通達や条例が出され、合理的配慮や情報保障は今や義務と理解されるようになりました。しかしながらその理念を根底で支えてきた筈のキリスト教の教会の中では、人の意識や実践が伴わない現実と直面します。何が「ネック」なのか、教会の「合理的配慮」、バリアフリーの実現について「タラントを活かす」という視点から考えました。

三つの教会でバリアフリー工事のときに経験したことを紹介します。

20年以上前、X教会の玄関前に急なスロープ、両開きの重いガラス扉、そして聖堂前には30センチ近い段差がありました。改善を望む多くの声がありましたが、聞き取りを始めると、「設備に頼るのではなく、そこにいる人が困っている方を助けて差し上げた方がいい」とか「教会なのだから愛徳を施すいい機会だ」という発言が出てくるばかりか、当事者からも「私のためになら何もしないでください」「決して私が改善を望んでいたなどと人に言わないでください」という声が返ってきました。一人の役員が「あなたの困っていることや必要とすることは、自分のためではなく、ほかの人やみんなの将来の助けになるんです」と説明し、心のバリアは少し低くなってきたようです。現在その教会の玄関には自動扉と緩やかなスロープが設置されています。

Y教会の聖堂入り口前には階段とスロープがありましたが手すりがなく、足元が不確かで不安を漏らす人がありました。役員会で対策を検討するよう提案が出されたとき、ある役員が当事者とおぼしき人たちに「あなたには本当に手すりが必要か」と尋ね、対象者の答えはすべて「要らない」だったと報告されたことがありました。しかし注意して人の流れを観察することで必要がわかり、設置が決定し、今は多くの人利用できます。差別解消法が出される前のことです。

Z教会の聖堂の前に急な坂があり、下りのときに転倒しそうな人があるので手すりを付けることになり、予算をとりました。しかし設置計画の撤回を求める声があがりました。Aさんは「教会にお金の余裕がない」、Bさんは「本人が気を付けるか、誰かに手伝ってもらえば無くて済む」という趣旨でした。実はBさん自身がしんどさを経験している人でした。Bさんに、教会の「合理的配慮」の義務のことだけでなく、しんどい体験や気付きも共同体や人のためのタラントとして活かしてほしいと話したところ、「人の目に忖度して遠慮するより『マイノリティー』の『タラント』も生かす教会になるため」と賛同を表明されるようになりました。手すり設置工事は近々始まる予定です。

「障害者差別解消法」が出来「合理的配慮」が叫ばれ、地域社会が変わっても教会の中で「マイノリティー」から声を上げるにはまだまだ壁が厚く感じます。でも何年か先にAさんにも「これがあって良かった！」と喜んでもらいたいのです。

私たちが神から預かったタラントは、才能や能力のような比較や評価の対象ではありません。ユニークな方法で人の幸福のために活かせるものです。

イエスにならう生き方を求めて

悩みを持つ人々の痛みに寄り添い、
その悩みを少しでも分かち合うことのできる、
教会共同体をめざして

日本カトリック司教団著「いのちへのまなざし」
増補新版より



いのちの大切さ

ブラッドリ・ロザイロ（梅田ブロック協力）

あけましておめでとうございます。この一年が皆様にとって喜びと希望、そして平安に満ちた年となりますようにお祈り申し上げます。

私たちは毎日、新聞やテレビで人の命が奪われるニュースを読んだり、聞いたりすることがあると思います。もしかしたら最近のニュースはそればかりかもしれません。

私は毎日のようにインターネットで世界の情報を読んだりする時にどこかで誰かが殺された、或いは事件に巻き込まれて死亡したという見出しに目が止まります。そして、神様がお造りになったいのちをなぜ人間が大事にしないのかと考えます。

私は昨年終わりに過ぎ行く年を少し振り返って見た時に、間違いなく2020年の重大ニュースのトップと言えるのが新型コロナウイルス感染症(COVID-19)ではないかと思いました。そして、目に見えないこのウイルスの犠牲者となっていく多くの人のことを考えた時に浮かんできた言葉は「いのち」でした。私にとって2020年はいのちの大切さを深く感じるさせる一年であったように思います。

昨年のごとはありませんが、私は母国スリランカにいた時にいのちの大切さを体験したことがあります。スリランカでの内戦（民族争い）が終結を迎えてから10年以上たちましたが、この長い戦争で悲しいことに7万人以上の犠牲者を出しました。戦争中いのちを守るために母国を離れた人もいれば、危険を感じながら生活を続けていた人もたくさんいました。ある時、大統領がスリランカの平和のために隣の国インドに助けを求めました。インド政府はその願いに答えて兵士を送ってきました。私の町トリンコマリも戦争の被害を受けていたのでインドの兵士がたくさん駐留していました。夜間は外出が禁止されていました。時々停電もありました。そんな夜は街が真っ暗で、テロリストが攻めやすいと思うととても怖かったです。

こういう雰囲気の中で町の教会がクリスマスを迎えることになりました。キリストの誕生を祝うクリスマス徹夜祭ミサに、遠くから一時間くらいかけて歩いて来る人もいました。でもこれはとても危険なことでした。それで教会の神父様は皆の安全を守るためにはどうすればよいかと考えインドの兵士に相談に行きました。指揮官は、「特別の夜です。ぜひ協力しましょう」と心を込めて答えました。夜間の外出がゆるされ無事に集まることができました。教会は喜びで満ちた人々であふれていました。気が付くとミサの間中大勢の兵士たちが教会を取り囲んで守ってくれていました。この兵士たちを通して私たちはイエス・キリストがこの世に來られた真の意味を味わい喜びを感じることができました。これは33年前のことですが、当時、恐れを感じながらそこにいた一人として今そのことを思うと心が感謝の気持ちでいっぱいです。一つのいのちの誕生を祝うために集まっていた多くの人を、インドの兵士をとおして神様が見守ってくださったその夜は、戦場での平和な夜であり、いのちの大切さを感じさせる夜でもあったと思います。恐れや不安を感じながら危険な状況の中で生きる時に神様が人をとおして私たちを訪れます。それは、自分が生きることを神様が望んでおられるからではないでしょうか。新型コロナウイルスの感染流行や、自粛生活が続くなど先が見えない状況の中で、ストレスを感じたり不安な気持ちで生活している人もいれば、不確実なこの時期にどのように希望と励ましを見つけることができるかについて考える人も大勢いると思います。現在、私たちはいのちの危険を感じながら行き先もわからず海を航海していますが、私たちの船は望ましい目的地を念頭に置いているはずで、神さまが私たちの船を完全に支配している限り、希望はあると私たちは信じています。十字架が終わりではなかったように、それはこの危機を乗り越える道を見つける希望の旅であると思います。



「シナピスホーム」オープン！ ～ 誰もが必要とされる居場所づくり ～



12月2日、大阪市生野区の閑静な住宅地の一角にシナピスホームが開所しました。

この建物はもともと韓国殉教福者修道女会の修道院でしたが、このたび大阪教区が借り受けたものをシナピスが使わせていただくことになりました。しばらく使われていなかった建物を、シナピスのスタッフと難民移住者が10月から2か月かけてきれいに掃除し、その過程で地域の方々とも交流を深めてきました。オープンと同時に難民移住者が地域の方々をもてなす「おとしより食堂」を始める予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の第三波と重なってしまったため、食堂ではなく、しばらくは週に一度、カフェを開くことにしました。

おもてなしをさせていただくのは、難民申請者や様々な理由で在留資格が認められない人々です。自立したい、社会の役に立ちたいと強く願っても、働くことが禁じられているためままなりません。また、様々な排除に直面する中で孤独や疎外感を深めていく人もいます。通常はみなさまからいただいたご寄付で生活を支援し、そのお礼として教会内で奉仕活動をしています。今年の5月から9月にかけては医療用の使い捨て防護ガウンを作り、医療・介護機関に寄付するプロジェクトにも参加しました。この時、本人たちが望んでいるのが何よりも社会貢献であることを改めて確認し、介護福祉士の資格を持つスタッフの発案により、地域住民の助けとなり、難民移住者が心を込めて奉仕することのできる「おとしより食堂」を始めることにしました。

オープニングに先立ち、生野教会から駆けつけて下さった中谷功神父、佐藤達郎修道士とともにミサを捧げ、シナピスホームが全ての人にとって温かい憩いの場となるように祈りました。この日の様子は12月3日に朝日放送のニュースでも放映されました。その直後から、ご寄付やボランティアの申し出、ご自身も寂しい思いをしている、シナピスホームの近くに引っ越したいなどの電話が次々と寄せられています。ゆくゆくは、電球の付け替え、清掃、買物の付き添いなど、介護保険ではまかなえない地域の方のちょっとした困りごとをお手伝いしながら、少しずつ地域に馴染んでいきたいと思えます。そして、シナピスホームでの出会いを通じて、誰もが必要とされ、大切にされる居場所を作ることに貢献できたらと願っています。

(シナピス事務局 川本 綾)

朝日放送テレビ
「キャスト-CAST-」
“国を逃れた人たちが
もてなし助け合う
「おとしより食堂」
オープン”

YouTubeは
こちらから▼



「世界平和の日」 教皇メッセージを受けて

— 平和への道のりとしてのケアの文化 —

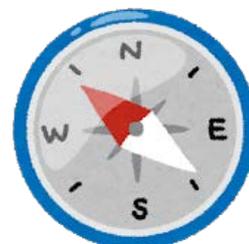
社会福音化部 松浦 謙

教皇フランシスコは今年の「世界平和の日」にメッセージを送り、パンデミックという厳しい状況に置かれた世界において、わたしたちが歩むべき道を示そうとしています。

教皇はわたしたちが阻止しなければならない3つの文化を指摘します。それは「無関心の文化」「使い捨ての文化」「対立の文化」です。世界を襲ったコロナ禍は奇しくもこれらを引き彫りにしました。医療従事者や感染者への偏見や言われなき中傷、DV、いじめ、さまざまなかたちの排外主義、非正規労働者や外国人技能実習生への非人間的な扱いなどです。わたしたちが、これに対抗して目指すのは「ケアの文化」であると教皇はいいます。ケアとは「守ること」「心を配ること」「世話すること」「気遣うこと」等を意味しますが、それは、父である神様がまさにわたしたち一人ひとりの人間のいのちを限りなくとおしいものとして大切にされるからです。その心は、わたしたち人間を極みまで愛されたイエスの生き方と、イエスの弟子たちによって引き継がれた初代教会の生き方に表れています。教会の社会教説はこのケアの文化の基本的な原理を教えます。わたしたちは同じ舟に乗っているため、誰もひとりでは救われません。だから皆で力を合わせて、すべての人にとって善いこと、助けになることを求め、一人ひとりのいのちと生きる権利を守らねばなりません。回勅「ラウダート・シ」が指摘したことですが、神様によって造られたすべての生きとし生けるもの、この地球の水も空気も、海も山も、人間のいのち離せず、つながっています。だから地球環境を守りあらゆるいのちをケアすること、それがわたしたちに託された使命なのです。

これらの福音に基づいた教えは、「羅針盤」のようなものです。この方向を見誤ることなく、「ケアの文化」を作り上げることこそ平和への確かな道のりであると教皇は強調します。

今年は大阪で「正義と平和協議会全国集会」も開かれます。大会のテーマは「すべてのいのちを守ろう～誰も置き去りにしない世界に向けて」です。わたしたちは、世界の現実をしっかりと見定め、今、何が起きているか、そこにどのような問題があるかを見極め、それを福音の光という羅針盤に照らして振り返りたいと思います。そこからわたしたちがこれから何を選び、具体的にどう生きるか判断し実践していきましょう。



飯盛山麓 クリスマス フェスタ

カトリック大東教会では 2018 年より、『飯盛山麓^{いいもりさんろく}クリスマスフェスタ』を開催しています。教会背後にある標高 314メートルの飯盛山頂上に築かれていた飯盛山城では、1563 年に 73 名の武士がヴィレラ神父から洗礼を受けました。これがきっかけとなって河内^{かわち}地方には6千名もの人びとがキリシタンになったことが、宣教師たちのローマへの手紙によって報告されています。大東教会信徒は、この地が“河内キリシタンの里”であることを誇りに思い、地域の人々にカトリック教会のことを知ってもらいたいとの思いから、竹延^{たけのぶ}真治神父とともにこの企画をすすめてきました。

12月20日（日）午後2時から2時間ほど、第3回目となるクリスマスフェスタを行いました。大東教会有志が、マタイ2章の降誕物語（東方の占星術の学者たちの幼子礼拝・ヘロデ王の虐殺計画・聖家族のエジプト避難）をペープサートで演じたのち、シナピス職員のビスカルド篤子さんが『クリスマス～居場所の無い人々を想う季節～』というテーマで、日本にいる難民移住者のことをお話ししてくださいました。お話の内容は非常に具体的で、虐待されて教会に助けを求めて来たフィリピン人女性や子どもたちを教会のネットワークを使って救出するお話、本国に強制送還されれば命が危ういのにな難民として受け入れられずに長期間収容所に拘束されておられる方々の様子、仮放免されても就労が禁止されているため、食べるものにも事欠く方々をシナピスがどのように支援しておられるかなど、実体験をもとにお話しして頂きました。お話を聴くことにより、ペープサートで演じた聖家族がエジプトで体験された難民生活は、遠い昔の遠い国のできごとではなく現代日本のわたしたち自身



の問題でもあることを知りました。

また、教会がなぜ移民や難民の方々と積極的にかかわろうとするのかが少しは理解できたように思います。

講演の後、休憩をはさんで、プロテスタントの徳井由美子さんによるハープの弾き語り演奏がありました。みんなが知っているクリスマスソングの歌詞があらかじめ配られました。いつか大声でみんなと歌える日を待ち望んで、わたしたちはなつかしいメロディーに合わせて、歌詞を心の中で口ずさみながら、徳井さんの演奏に聴き入りました。



当日の参加者は昨年の3分の1の28名でしたが、地域の方数名も来てくださいました。コロナ禍の中、神様に守られて開催できたことを実感いたしました。

（文 大東教会 高橋 明）

詳細は各ホームページをご覧ください。

- カトリック大阪大司教区 大阪北地区 しろきたブロック

<https://shirokitablock.wixsite.com/home/>

- カトリック大東教会

<https://www.facebook.com/daitochurch123/>

第41回「カトリック正義と平和 全国集会 大阪大会」

大会テーマ “すべてのいのちを守ろう”

— 誰も置き去りにしない世界に向けて No one will be left behind —

2020年6月から実行委員会を立ち上げ、準備を進めています。教皇フランシスコが2019年訪日の際、「すべてのいのちを守ろう」という標語のもとに語ったことは、今わたしたちが直面しているコロナ禍という現実の中においても忘れてはならない不変の真理であったと思います。教皇は2015年の回勅「ラウダート・シ ともに暮らす家を大切に」においても、神様が創造され、わたしたちに恵みとして与えられた自然と、その中で生きるすべての人間のいのちをかけがえのないものとして守り、大切にしよう訴えました。そして広く人々と対話をし、協力しながら、すべての人の生命と尊厳を守り、誰もが幸福に生きることのできる世界を造ろうと呼びかけました。

おりしも2015年の国連サミットで採択されたSDGs「持続可能な開発目標」の中に「誰も取り残さない」という目標が、掲げられています。わたしたちは教皇フランシスコのメッセージに励まされ、国際社会が目指そうとする方向性と心を合わせて歩みたいと思い「誰も置き去りにしない世界に向けて No one will be left behind」をサブテーマといたしました。

実行委員会では現在、プログラムの内容について話し合っています。
今回の大会では分科会をメインにし、つぎのようなステップで進めていきます。

分科会の4ステップ(S-L-S-A)

| | |
|-----------|----------|
| 1. See | 理解する |
| 2. Listen | みことばを聴く |
| 3. Share | 分かち合う |
| 4. Act | 行動する(派遣) |



大会ロゴマーク

ポスター、分科会等の募集要項を作成中。
出来上がりましたら、皆様のお手元にお届けいたしますので、もうしばらくお待ちください。



みんなの けいじばん



シナピスホームだより

シナピスホームがオープンしてから2か月がたちました。12月は毎週水曜日にカフェを開いていましたが、年明けに緊急事態宣言が出されたためしばらくお休みすることとなりました。しかし、人の出入りが少なくなったホームでは、スタッフと難民移住者のメンバーが「おとしり食堂」の準備を着々と進めています。昨年11月より植えている野菜もすくすくと育っています。スタッフや難民移住者メンバーの愛情をたっぷり受けた野菜やハーブを、みなさまに提供できる日をお待ちしています。

収穫したミントを丁寧に煮出して作るミントティーは、ブラジル出身のシルバさんの自慢の一品です。

几帳面なイラン出身のアレックスさんが年末年始も水やりをしてくれました。



元気に育ってくれたのに、行き場のないレタス。料理上手のスタッフがきのこことと和えてみました。

みずみずしいラディッシュは、サラダに入れるとほのかに甘い香りが口いっぱい広がりました。

シナピスカフェは、緊急事態宣言終了後、感染収束の様子をみて再開する予定です。

社会福音化部 黙想会のお知らせ

社会福音化部の松浦謙神父による黙想会を実施します。

日時：2021年3月13日(土) 10:00~16:00

場所：宝塚黙想の家

参加費：2000円

申込み締め切り：3月6日(土)

問い合わせ：シナピス

定員 12名



食糧支援のお願い

コロナで仕事を失った移住者、技能実習生、帰ることができない留学生などの相談が増えています。パスタ、パスタソース、インスタントラーメン、インスタントスープ、米、缶詰、調味料、賞味期限の長いパンなど、日持ちのする食べ物のご支援をお願いします。

詳しくは下記までご連絡ください。



掲示板には、メール、FAX、または右のQRコードからご投稿ください。

☆電話番号：06-6942-1784 ☆FAX番号：06-6920-2203

☆メール：sinapis@osaka.catholic.jp



教えてください～！！第十弾！

「エコジカルな回心」とは？



核兵器禁止条約が発効しました。

1月22日、核兵器の開発や実験、保有を全面的に禁じる核兵器禁止条約が発効しました。これは、核兵器を非人道的で違法とする初めての国際条約で、現在52カ国・地域が批准しています。その多くは南半球にあり、経済大国でもありません。一方「先進経済大国」である核保有国は条約に反対し、アメリカの核の傘下にあり、核が核を抑制するという立場をとる日本も批准していません。



え？日本は被爆国なのに批准しないの？
真っ先にするかと思った。どうして？

批准国の一つである南アフリカは、かつて核兵器を保有していたけれど廃絶したよ！

日本政府の考え

*外務省 HP より

「日本は唯一の戦争被爆国であり、政府は、核兵器禁止条約が目指す核兵器廃絶という目標を共有しています。一方、北朝鮮の核・ミサイル開発は、日本及び国際社会の平和と安定に対するこれまでにない、重大かつ差し迫った脅威です。北朝鮮のように核兵器の使用をほのめかす相手に対しては通常兵器だけでは抑止を効かせることは困難であるため、日米同盟の下で核兵器を有する米国の抑止力を維持することが必要です。」



本当におかしい。どこかの国の武力に頼ることが平和を守るすべだなんて。核の被害は人のいのちや生活を理不尽に奪い、いつまでも苦しみと悲しみを残す。環境だって取り返しがつかないほど破壊するのに。

核のおそろしさを知っているのは、日本だけではありません。

欧米各国の核実験に苦しんだ歴史をもつオセアニア

「核兵器の歴史は、大きな打撃を受けた先住民の歴史の一部」

1952年から57年まで英国が豪州で12回行った核実験、うち9回は南部の砂漠で行われ、先住民たちが被爆した。

「生きる権利や基盤を奪われた」

1954年に米国がビキニ環礁で行った水爆実験。170キロ離れたロングラップ環礁にも死の灰が降下し、島民に重大な健康被害を及ぼし、島民は今も避難したまま故郷に帰れない。

朝日デジタル 2021年1月22日記事

「無関心を捨て、核なき世界平和の実現のために」

教皇フランシスコは、一昨年（2019年）の日本訪問の際「核なき世界平和の実現」について述べられました。今年の「世界平和の日」のメッセージでも次のように述べています。

紛争の原因はさまざまですが、その結果はいつも同じです。破壊と人道危機です。わたしたちは立ち止まって、自問すべきです。世界中で紛争が当たり前のこととなったのは、なぜだろうか。そして何よりも、連帯と兄弟愛にあふれる平和を真に求めるために、どうすれば心を入れ替え、考え方を改めることができるだろうか。どれほどの資源が武器のため、とりわけ核兵器のために浪費されていることでしょうか。その資源は、平和と全人的発展の促進、貧困との闘い、医療必需品の確保といった、人々の安全を確保するうえで、より重要な優先事項のために用いることができたものです。このこともまた、現在のCOVID-19のパンデミックや気候変動のような地球規模の問題によって浮き彫りにされています。

今回の条約は、被爆者やその家族、支援者、市民の声が大きくなりました。

「すべてのいのちを守る」とは、今生きている人間や生き物だけではなく、理不尽に奪われた人々のいのちや思いにも心を寄せ、未来のいのちにも思いを馳せながら声を上げていくということ。自分に何ができるのか、引き続き考えていきたいと思えます。



みなさんがご存じのことを教えてください

たとえばこんなこと

1. 環境のためにしていること、昔から言い伝えられている知恵

2. あなたにとって、「すべてのいのちを守る」とは？

☆お名前またはニックネーム _____

☆連絡先（メールアドレスや電話番号など）

☆投稿方法 FAX : 06-6920-2203 / メール : sinapis@osaka.catholic.jp

QR コード*

*QRコードの読み込みには、スマートフォンなどでQRコードリーダーをダウンロード
する必要があります。



南西諸島では今「中国、北朝鮮の脅威から領海、領土を守る」との理由で、自衛隊のミサイル部隊、警備隊の配備が進んでいます。

宮古島で

今年1月17日に行われた宮古島市長選挙で、玉城知事が支援する新人の座喜味一幸候補が、現職の下地俊彦候補を破り当選しました。島を二分する事態となっている陸上自衛隊の配備は、両陣営とも容認したため選挙の争点とはなりませんでしたが、座喜味陣営の中には「明確に反対」「配備反対の民意を示せた」と主張する人もいます。

宮古島駐屯地司令の言葉

「宮古島は東シナ海と太平洋を隔てる要衝で、南西諸島の第一線である」

戦後沖縄を占領した米軍も、沖縄を「太平洋の要石」と呼び、冷戦体制の最前線に位置づけていました。

「(宮古島への自衛隊の配備は) 島しょを守り抜くという我が国の断固たる意志」

「島しょ」を守るといっても、そこに住む人々、その暮らし、豊かな自然のことはどれだけ考えられているのでしょうか。

慶良間島で

12月から1月にかけて、米軍機が慶良間諸島で超低空飛行訓練を行っています。政府は「日米安保条約の目的達成のための重要な訓練」と容認、大事故につながりかねない事態に地域住民は強い不安を抱えています。

仲里さんの言葉

「軍隊は住民を守らない。いつ爆弾が落ちてくるかわからない場所に観光客はこない。自衛隊基地を許してはならない！」

仲里さんは
体験者なの



歴史に触れよう！

「コザ事件」

1970年12月20日に起きた「コザ事件(コザ騒動)」から50年が経ちました。本土ではほとんど忘れられている出来事ですが、沖縄の新聞は20日、一面トップで報道しました。事件は20日の深夜、コザ市(現沖縄市)での米兵酒気帯び運転による交通事故がきっかけです。事件現場に集まった市民は「加害米兵を逃がすな」と叫び、米軍車両のみに投石、放火し、70台以上の車両が燃やされ、武装米兵も動員される事態となりました。事件後、4人が放火容疑で起訴されましたが、裁判では「犯行に加担するに至った心情は理解するに難くない」と執行猶予が付きしました。

事件の背景には米軍支配に対する住民の怒りがあります。当時ベトナム戦争からの帰還兵は荒んでおり、1970年の米軍関連事件は千件近くに上っていました。前年にはコザ市近郊に秘密裡に備蓄されていた毒ガス(VXガス、サリン等)の漏洩事件が起こり、住民の怒りが高まっていました。更に事件直前の9月、糸満町(現糸満市)で米兵による女性の轢殺事故が起きましたが、加害者は無罪とされました。

2020年12月20日の「琉球新報」記事によると、当時事件現場で取材していたラジオ沖縄の記者のマイクを一人の青年が奪い取り「沖縄のこの25年間の犠牲。何万という人が死んでいて、沖縄はどうしたらいいのか。沖縄人は人間じゃないのか。ばかやろう。沖縄人のこの涙を分かるのか」と叫びました。採録された痛切な訴えは、今も私たちに向けられています。

与那国島で

自衛隊配備に反対する住民が「武力衝突による平和的生存権の侵害」などを理由に、駐屯地工事の差し止めの仮処分命令申し立てを行いました。那覇地裁は「武力衝突に至る恐れがあることを認める資料はない」などとして2015年に却下しています。



武力衝突の恐れがないなら、なぜ自衛隊を置くの？

石垣島で

石垣島で降ってわいたように自衛隊配備計画が持ち上がった時、政府は住民に説明する前に行政、議会に根回し、用地買収、造成を進めていたとの情報も。(2016年2月10日衆議院での仲里利信議員の質問より)

シナピス工房

四旬節カタログをお届けします。

十字架の道行きストラップ
大玉のロザリオ
マスクストラップ
など、ご用意しています。
是非、ご覧ください。



活動へのご支援ご協力
よろしくお願いたします。

郵便振替 00960-7-61419

加入者名 カトリック大阪大司教区シナピス

難民移住移動者支援もよろしくお願いたします。

食料品提供のお願い

例) お米、調味料、缶詰など保存のきくもの

お電話をお待ちしています!!

☎06-6942-1784



◆ HP はただいまりリニューアル作業中です。
再開まで今しばらくお待ちください。

あとがき

シナピスホームのことが放映された数分後、事務所の電話が鳴りました。「今、放送をみた、難民さんたち、ほんとに大変や。少しやけど送金するから住所を教えて」年金生活をされている方でした。電話を置くとまた鳴りました。「孤独な一人暮らしだ。もう我慢できなくて自暴自棄になっているとき、番組をみた。だれかの声を聞きたくて思わず電話した。私もこのホームへ遊びに行きたい」76歳の方でした。そして先日、寒さの厳しい冷たい風が吹く夜、仕事を終えての帰り道、車を走らせていると、ある学校の塀に沿って荷物を一杯積んだ自転車がピタリと止められ、その傍に人が横たわっていました。思わず車を停めて、積んでいたカイロと寝袋をもって声を掛けました。しばらく話をして別れ際に、「ありがとう、久しぶりに話した」と75歳の方でした。今日も、電話が鳴り、ドアをノックする音が響きます。「ドアはいつも空いていますか。平和と喜びを携えてきてもらえますか？」と扉の向こうで、私を待っている人がそこに。(H)

▽▲▽ シナピスの主な活動 ▽▲▽

◆ 広報活動

- ・ 教皇メッセージ、司教団メッセージ等
社会活動の指針の伝達
- ・ 読者と教会内外の社会活動をつなぐ
機関誌としてシナピスニュースを発行

◆ 大阪教区・社会活動委員会との連携

◆ 学習会研修会の企画

◆ こども基金

世界・日本のこどもたちへの援助

◆ カトリック中央協議会との連携

正義と平和協議会、難民移住移動者委員会、
カリタス、部落差別人権委員会に委員を派遣

◆ 人権教育の講師を務めるなど教育機関への働きかけ

◆ 難民移住移動者支援

難民移住移動者の暮らしやすい社会を目指して

難民移住移動者 相談ダイヤル

☎ 06-6941-4999

アクセス

〒540-0004 大阪市中央区玉造 2-24-22
カトリック大阪大司教区事務局内



公共交通機関ご利用の場合

- JR 森ノ宮駅より 約 1000m
 - 地下鉄中央線森ノ宮 2 番出口より 約 800m
 - JR 玉造駅より 約 1000m
 - 地下鉄鶴見緑地線玉造 1 番出口より 約 800m
- 車でお越しの場合
阪神高速 1 3 号東大阪線法円坂出口
法円坂交差点南へ上町を東へ

活動へのご支援ご協力をおねがいたします

郵便振替 00960-7-61419

加入者名 カトリック大阪大司教区シナピス



忘れない＊あきらめないカレンダー

どんな状況下でも、忘れず、あきらめず、希望をもって歩む皆さまに、情報を配信します。



2021年2月の案内

★印 カトリック関係

2021年 祈禱の信徒 祈りの意向 2月

世界共通の意向: 女性への暴力

暴力の犠牲となったすべての女性が社会によって守られ、その苦しみについての理解が深まりますように。

日本の教会の意向: 子どもや女性の保護

子どもや女性の権利を擁護し、特に性虐待被害者の尊厳を回復する社会を築くことができますように。

新型コロナウイルス感染症の影響で中止される場合があります。事前に各主催者へお問い合わせください。

| | | |
|----|---|--|
| 1 | 月 | |
| 2 | 火 | |
| 3 | 水 | |
| 4 | 木 | |
| 5 | 金 | |
| 6 | 土 | 女性器切除の根絶のための国際デー ●「STOP!大阪市の権限・財源ぼったくり! 広域行政一元化条例」街頭宣伝 ■場所:南森町交差点 14時～15時 主催:戦争あかん!ロックアクション有志 |
| 7 | 日 | ●学習会「介護保険の危機!4月からますます改悪される～第8期介護保険事業計画のネライとは!？」 ■場所:神戸市勤労会館多目的ホール 13時開場 13時半～16時半 講師:日下部雅喜さん(大阪社会保障推進協議会・介護保険対策委員長) 参加費500円 主催:安心と笑顔の社会保障ネットワーク 問合せTEL078-361-3655 |
| 8 | 月 | |
| 9 | 火 | ●映像で現代を語る会 ■場所:大阪市北区民センター 18時～ 上映「中国デジタル統治の内側で～潜入新疆ウイグル自治区」「その時沖縄は沸騰した～日米地位協定の波紋」 「夜の街と呼ばれて～ホスト風俗店員たちの本音の声」 会場費300円 主催:映像で現代を語る会 問合せTEL090-5151-9763(中森) |
| 10 | | 世界豆デー |
| 11 | 木 | 科学における女性と女兒の国際デー ●2.11「建国記念の日」反対!「競争・強制ではなく、命と人権を守る教育を!」 ■場所:天王寺区民センター 13時開場 13時半開会 集会后難波までデモ 講演:額綱厚さん(明治大学特任教授 植民地文化学会代表) 各地のたたかい報告 資料代:700円(学生・障がい者無料) 手話通訳有 保育希望要連絡 主催:「日の丸・君が代」強制反対大阪ネット mail:yamadaK@nike.eonet.ne.jp(山田) |
| 12 | 金 | |
| 13 | 土 | 世界ラジオ・デー [UNESCO] ●憲法講演会日本学術会議「任命拒否」を問う ■場所:エルおおさか・南館5Fホール 13時半開場 14時開会 講師:松宮孝明さん(立命館大学法務研究科教授) 資料代:800円 学生半額・介助者無料 主催:とめよう改憲!おおさかネットワーク 連絡先:中北法律事務所 TEL06-6364-0123 市民共同オフィスSORA TEL06-7777-4935 |
| 14 | 日 | |
| 15 | 月 | |
| 16 | 火 | |
| 17 | 水 | |
| 18 | 木 | |
| 19 | 金 | ●2021年新春学習会「菅政権の本質と日本の民主主義のゆくえ」 ■場所:蛍池公民館(ルシオーレビル)4階 第2会議室 18時半～20時 講師:木戸衛一さん(大阪大学教授) 報告:①「敵基地攻撃能力」保有と実質改憲 中北龍太郎さん(弁護士) ②「モリ・カケ・サクラ」国政私物化問題 大川一夫さん(弁護士) ③「改憲手続き法」改正と改憲動向 藤木邦顕さん(弁護士) 主催:市民連合・豊中 TEL090-4033-1376(松岡) |
| 20 | 土 | 世界社会正義の日 |
| 21 | 日 | 国際母語デー[UNESCO] |
| 22 | 月 | |
| 23 | 火 | ●天皇誕生日祝賀反対!2・23大阪集会「コロナ緊急事態法と天皇制 何が問題か一天皇賛美と人民主権を問う」 ■場所:エルおおさか南館101号室 13時半～16時半 16時45分～デモ(大阪駅まで) 講演:冠木克彦さん(弁護士、「戦争法」違憲訴訟原告代理人、大飯原発設置認可取り消し訴訟弁護団) 会場費(資料代):800円 主催:参戦と天皇制に反対する連続行動 連絡先TEL06-6303-0449 |
| 24 | 水 | |
| 25 | 木 | |
| 26 | 金 | |
| 27 | 土 | |
| 28 | 日 | |

